

平成 25 年度第 1 回富良野市中小企業振興促進審議会議事録

日 時) 平成 25 年 8 月 27 日 (火) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 10 分

場 所) 富良野市役所大会議室

出席委員) 佐々木 淳、杉谷久己、三上那男、館和男、長屋義文、
高崎節子、谷明郭

事 務 局) 山内室長、川上課長、本田係長、松野主査、福士商工労働係

1. 開会 (川上課長)

- ・ 本日は審議委員 10 人中 7 人が出席をいただきました。富良野市中小企業振興条例施行規則第 16 条の規定に基づき、会議は成立しておりますことを報告します。

2. 市長挨拶

- ・ 現在、中心市街地活性化基本計画の見直し検討中。市街地の活性化については商店街が大きく寄与。
- ・ 平成 24 年度を転換期として、中小企業向け補助金、低利融資制度を見直した。
- ・ 山部でも一部の店舗で活用いただいた。今後もさらに利用が進むような機会づくりを行っていく。
- ・ 次のしくみづくりにつながるような意見交換をお願いしたい。

3. 会長挨拶

- ・ 9 月 30 日をもって任期満了となる。この間、補助金や融資制度の見直し等を行い、審議会として、一定の役割を果たせたかと思う。
- ・ 行政機関、商工会、商工会議所、金融機関、連携して PR し、活性化につながれたら。
- ・ 次期審議会へ引き継ぐ課題もあろうかと思うので、意見集約していきたい。

4. 報告事項

(報告事項、事務局より説明)

⇒報告事項に関する質疑

(杉谷委員)

- ・ 中小企業振興資金が 6 月に借入が伸びているが？

(三上委員)

- ・ 利子補給が上乘せされたメリットは大きく、金融機関としては、顧客にとってメリットが大きいものから勧めていくため、借入が増えているものと思われる。

(杉谷委員)

- ・ 借り換えや償還期間満了に伴って、新たな運転資金借入需要があるのか？

(三上委員)

- ・ 融資限度額が 1500 万円となったことによって、例えば、200 万円の残高があれば、借り換えて実質 1300 万円を借入することもできる。借り換えは他の制度資金でも行われており、(中小企業振興資金の) 限度額が増えたことにより、こうした借り換えがより有効となった。

5. 意見交換

(佐々木会長)

- ・ 課題を実質議論するのは次期任期における審議会となるが、委員それぞれから意見を伺いたい。

(杉谷委員)

- ・ 補助金の執行がゼロにとどまっているものは、使い勝手が悪いのか、需要がないのか？
- ・ 商工会議所、商工会が情報を会員企業に情報をつなげていくべきだと認識している。

(事務局)

- ・ 需要がないわけではないが、一企業に補助金を出すことが、行政側も、申請する企業側も慣れておらず、申請にまで至っていないと受け止めている。
- ・ 商工会議所、商工会の仲介、あっせんは重要。これからも連携を深めたい。例えば、富良野商工会議所では、新規の開店相談にのった上で、補助金申請書類の作成を支援している。

(杉谷委員)

- ・ 確認だが、太陽光発電設備に対する補助制度はあるのか？

(事務局)

- ・ 現行では、補助制度、固定価格買取制度等が充実しており、一定期間で設備投資が回収できる見通しがたつことから、店舗向けの補助制度は設けていない。

(三上委員)

- ・ (昨年の) 制度融資の審議では、(中小企業振興資金と商工業パワーアップ資金の) 利子補給制度の違いが納得しがたかったので、意見を述べさせていただいたが、結果、マル経資金の限度額を参考に 500 万円増額となったことについては、「変化した」ことを評価したい。今後も制度の改善に向け、協力は惜しみなく行いきたい。
- ・ 補助金や融資制度によって市内の経済活動が活性化すれば、市民にもメリットは発生する。負担をする側と事業を行う側が WIN-WIN の関係になることを望む。

(館委員)

- ・ FURANO201 でも(市の補助を受けて) 何件かテナントが増え、若い経営者が増えている。

- ・ 新相生通商店街振興組合は、高齢化による廃業が相次ぎ、店舗数が減少している。シャッターが閉めっぱなしになっている商店もあるが、空き地が増えてきたことを懸念。五条通では、(まちづくり会社による)再開発事業が進んでいるが、新相生は遅れをとっている。リバーモール商店街、すずらん商店街とともに駅を中心としたまちづくりを進めていきたい。
- ・ マルシェ等に訪れる観光客を顧客として取り込みたいが、(協議しても)なかなか話がまとまらなかった。
- ・ 今回、新相生通商店街振興組合として、国の補助金を申請してセミナー、視察などのソフト事業を実施する。商店街立て直しのきっかけとなれば。

(佐々木会長)

- ・ 三番館地下のお化け屋敷による集客効果はあったか？

(館委員)

- ・ 入場料が高いという感想が多いようだ。

(佐々木会長)

- ・ 街なかの入込増を促すものとして、(お化け屋敷事業に)期待している。(新相生、リバーモール、すずらんの)三商店街の取り組みについては、ぜひ進めていただきたい。現在、三商店街の活性化策としては、どのような議論経過なのか？

(館委員)

- ・ 再開発事業を望む声もあるが、(ハード整備事業は)まちづくり会社の助けがなければ難しい。現在検討中のソフト事業では、昔の写真などを活用したイベントを検討しており、できることから進めていきたい。

(長屋委員)

- ・ 中小企業家同友会では、若葉会という青年経営者の組織があり、活発に情報交換している。

(佐々木会長)

- ・ 市の補助金や融資制度メニューについて、話題にのぼらないか？

(長屋委員)

- ・ 同友会の例会で、補助制度について市の担当に説明してもらったことがある。
- ・ (若葉会には)藤井牧場さんや、中富良野だが寺坂農園さんなど、農産物や農産加工物の販売を積極的に展開している企業も参画している。

(高崎委員)

- ・ 私どもの団体も、高齢化が進んで新しい発想も減少しているが、先日、富良野で開催した講演会をきっかけに、自分たちができることを模索している。
- ・ 会に参加している女性から、すずらん通りの喫茶店が市の補助金と融資の制度を活用したと聞いている。

(佐々木会長)

- ・ まちづくりは男性ばかりではできない。ぜひ女性の力も結集してほしい。

(谷委員)

- ・ 公募委員へ応募して委員となった。
- ・ 補助制度については、せっかくできた制度であるから、自分の会社でも店舗改修工事への補助金、新製品開発への補助金を活用してみた。
- ・ 店舗改修では、観光客の誘客をねらってビアガーデン的なものができるようにというイメージで改修したが、この夏ではビアガーデンを実施できるほど人的な余裕がなかった。
- ・ 新製品開発については、個店として申請するのは勇気のいること。申請してみると申請書類の作成はやってしまえば簡単で、それほど難しいことを求められていないということはわかったが、事業を実施する上では、いろいろ制約もあることもわかった。
- ・ (新製品開発が) お金を儲けるまでの形となるか、試行錯誤という状況。(申請した事業の中で) どこまでのレベルで商品開発の成果を出せばいいのか、ということが悩ましい。
- ・
- ・ 個店が強くなって、税収増につながれば、雇用や教育へ予算がまわる。
- ・ ただ、(30万円限度という) この補助金限度額では、新製品完成を促すという目的にしては、額が不足しているのではないか。
- ・ 商工会議所等が中心となって富良野で生み出される商品群をブランド化し、マルシェ等で売っていくことを支援するとか、秋冬期の余剰労働力対策で物産展へ出店する団体に対して補助するのはどうだろうか。

(杉谷委員)

- ・ (補助金を活用した) 新製品は完成したのか?

(谷委員)

- ・ まだ完成していない。
- ・ 新製品開発をするには、お金と人材が必要。

(佐々木会長)

- ・ マルシェ立ち上げの際の新商品開発では、アドバイザーを入れて開発した。

6. その他

- ・ 事務局から、審議会の任期、9月から次期審議会の公募委員の募集を行う旨、説明。

(杉谷委員)

- ・ 公庫のマル経資金への利子補給を、零細企業対策として富良野市も検討してほしい。マル経資金へ利子補給する自治体も増えてきている。

7. 閉会 (午後 4 時 10 分終了)